

# 平成22年度修道学園同窓会近畿支部総会報告

湯谷 正司 (高校22回)

毎年12月に恒例の平成22年度近畿支部総会は、平成22年12月5日(日)午前11時より、今年もハビス大阪6階のガーデンシティクラブ大阪オリオンの間で開催されました。朝から好天に恵まれ、絶好の同窓会日和となりました。

今年は医師や教師の方々が出席しやすいように、久方振りに日曜日開催となりました。その甲斐あつてか、これまで参加したくても出来なかった方も多数出席されました。

今年は、昨年皆無のドタキャンが4名いた為、残念ながら長年の目標である出席者100名以上の達成こそ出来なかったものの総員98名と近年まれに見る多数の出席者を得て賑やかな総会となりました。

司会は今年で4年連続となる35回畠さん(7回畠元校長のご子息)、さすがに4回目ともなると慣れたもので、玄人はだして立派に進行役を務められました。

まず会長の16回西原さんから、開会の挨拶を述べました。

出席者及び各来賓へのお礼の後、今春発刊の同窓会名簿の情報をベースに、若い層への働きかけを強化した結果、今年度の総会は、目標の出席者100名以上の達成が目前であり、非常に喜ばしいと述べられました。

次いで、副代表幹事で会計担当の22回湯谷から会計報告を、またこれを受けて17回の監査結城さんから監査報告をそれぞれ行いました。

引き続き来賓のご挨拶に移りました。

トップバッターは、田原校長。広い会場の隅々まで響き渡る張りりと艶のあるお声で、気合の入ったスピーチをして頂きました。

まず今年の8月15日に母校十竹ホールで開催された高22回(1970年卒業)の卒業40周年記念・合同卒業式で来年還暦を迎える卒業生に現役の校長が始めて卒業証書を授与したとの報告がありました。この学年は、当時学園紛争によりバリケード封鎖や機動隊出動を経験し、全国でも初めての

「分散卒業式」だった為、卒業生から40年振りに合同卒業式をやりたいとの熱い申出を受けた。しかも、式前にサッカー大会をすること。怪我をするから危ないと言うと同期の医者連れてくるから大丈夫と、世話役のパワーに圧倒され許可をした。当日、テレビ局から3社、新聞社多数の取材を受け、インタビューでは、学園紛争当事者の卒業式をよくぞ校長が許可したと記者から言われたとのこと。また、当日の様子を朝刊二誌(朝日新聞社と中国新聞社)に掲載されたとのこと。

ついで本題の母校の近況報告です。

先日行われた入試説明会は、2000名を超える出席者が集まり、この少子化時代にまだまだ人気不衰えていないこと。

運動部では世界ジュニアでの活躍が光る陸上短距離を筆頭に、ワンダーフォーゲル班、さらには文化部でもスクールバンド班が全国吹奏楽コンクールで銀賞を受賞するなど例年全国レベルの素晴らしい成績を収めており、これほど幅広い分野で活躍している学校は修道をおいてなく、このことは、修道がいかに多彩な才能をもつ人材の宝庫であるかということの証明であると述べられました。

次いで同窓会本部を代表され10回の高木一之本部同窓会長代理より祝辞をいただきました。

この中で、田原校長が就任されてから進学実績が下降気味であった母校が見違えるように蘇ったこと。週刊誌には古豪復活と書かれ、こんなにも学校が変わるものなのか、先生の動きを見ると実感したと述べられました。

また、来年は本部同窓会が100周年を迎え、同窓生名簿を充実したものになりたいこと及び多数の方々からの浄財・寄付の協力要請がございました。そして、いよいよ講演の部へと移りました。

今年の講師は15回の野間 昭典さん。「40年の研究生生活を振り返って」というテーマで、一貫して研究されてこられた心筋細胞の生理学について、

細胞モデルによるメカニズムを分かりやすく説明していただきました。

講演の中で、先生は科学・文学・宗教は究極のところ生命の追求ではなかろうかと言われたのが、大変印象に残りました。

最後に、修道の卒業生として出来るだけ貢献するとともに、後輩も育てて行きたいとの固い決意を述べて講演を終わられました。

講演会終了後、吉井副会長のご発声による乾杯の後、なごやかな雰囲気うちに食事・歓談へと移りました。

今年の呼び物は、マジシャンビリーこと副島雅之さん(29回)によるハンドパワーによるマジックショーです。全員が固唾を呑んで見守る中で、ネックレスとリングやトランプなどを巧みに操って聴衆を煙に巻かれました。

基本的な技でも数百回以上の練習が必要だとのことでした。

最後には、一度種を明かすと二度と使えないと云われているにも拘らず、種明かしまでして頂きました。

その後、上記合同卒業式のDVDの放映を観な

がら、しばらく歓談の後、宴もたけなわにさしかかった頃、本日出席の若手の方(52回:長崎良太さん、53回:古谷昭典さん、54回:国貞栄二さん)の3名に登壇して頂き、本日の感想、修道に対する想いを語ってもらいました。

終盤になり、今年も昨年のゲストスピーカーの近藤さん(29回)によるイタリアナポリ民謡サンタ・ルチアのメロディーに載せた替え歌などの後、いよいよ例年の呼び物の全員が輪になっての近藤さんの名リードによる校歌斉唱で最高潮に達しました。

最後に齋本代表幹事(17回)による閉会宣言でお開きとなりました。

今年の総会で特筆すべきなのは、25回以降の若手の方の参加が昨年の5名から23名と大幅に増えたことです。昨年より参加者が24名増えた分の75%を若手の方が占めるという、今後の総会運営に非常に明るい兆しが見えてきたといえるでしょう。これも、本総会のために遠方のところ早朝から駆けつけていただいた来賓の皆様方、講演者更には同窓会本部事務局ご担当者のお力添えのお蔭と本紙面をお借りし心からお礼を申し上げます。以上

